

令和7年度 此花中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 此花中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	82	47	33	7.8	11.0	学校	451
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	82	57.5	45.7	44.3	36.8	46.1	6.8	7.2	14.4	13.3	9.1
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	9.2	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	76	55.3	36.6	47.6	41.2	47.9	5.7	4.7	5.7	4.4	3.0
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	85	66.2	57.6	55.3	61.2	65.2	6.7	10.3	7.8	8.2	1.6
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	14.1	7.6	10.0	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	64.9	—	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	96	100.3	90.4	125.6	87.9
10月	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	30.56	26.73	42.08	50.06	79.70	-	8.18	188.83	23.15	41.70
	大阪市	28.85	26.89	43.47	51.80	80.14	-	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.84	78.82	-	8.00	197.51	207.74	42.20
2年 女子	学校	24.33	21.69	44.49	44.84	46.53	-	9.02	159.54	12.92	47.38
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	-	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	-	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 此花中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

① 全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査の結果、国語においては、学習内容に対する理解や学習意欲の面で一定の成果が見られた。一方、「書くこと」の領域では、平均正答率が42.2%と、大阪市平均を8.3ポイント、大阪府平均を10.6ポイント下回り、条件を踏まえて自分の考えを文章で表現する力に課題が見られた。数学においては、「関数」の領域で平均正答率が33.8%と低く、大阪市平均を9.7ポイント、大阪府平均を11.6ポイント下回る結果であった。数量の関係を式やグラフで捉え、考察する力の育成が十分でないことが明らかとなった。

② 中学生チャレンジテスト(各学年)

中学生チャレンジテストの結果、全学年・全教科において大阪市および大阪府平均を下回る傾向が見られた。特に、数学・理科・英語において平均との差が大きく、基礎的な知識・技能の定着と、それらを活用する力に課題が見られる。また、無解答率についても数学・理科・英語で高い傾向があり、問題に対する見通しをもって最後まで取り組む力に課題があることがうかがえる。

3年生について5教科合計(満点500点)で分析したところ、平均点は230.4点、正答率は約46.1%であった。生徒別の合計点を見ると、正答率5割未満の生徒が55.9%を占め、正答率6割以上の生徒は28.8%にとどまっており、学力の定着状況に課題があることが明らかとなった。

③ 大阪市英語力調査(GTEC)

大阪市英語力調査(GTEC)の結果、本校の平均IRTスコアは451であり、大阪市平均489、全国平均503を下回った。技能別に見ると、読むこと・聞くこと・書くこと・話すことのいずれにおいても十分な到達に至っておらず、語彙や文法の基礎的理解に加え、英語を活用して表現する力の育成が課題である。

④ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果、男子においては、握力やハンドボール投げなどで全国・大阪市平均を上回る種目が見られた一方、反復横とびや20mシャトルランなどの持久力・敏捷性に関わる種目では課題が見られた。

女子においては、全体的に大阪市・全国平均を下回る種目が多く、基礎的な体力や運動習慣の定着に課題が見られる状況である。

【今後に向けて】

全国学力・学習状況調査および中学生チャレンジテストの結果を踏まえ、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を育成する授業改善を進める。特に、国語では「書くこと」、数学では「関数」を中心に、根拠を明確にして自分の考えを表現する学習活動を充実させる。

中学生チャレンジテストにおいて正答率5割未満の生徒が多い状況を受け、家庭学習の内容と量の充実を図るとともに、習熟度に応じた指導や小テスト等による定着確認を継続的に行う。また、正答率6割以上の生徒に対しては、発展的な学習課題を取り入れ、学力全体の底上げを図る。

英語については、語彙・文法の基礎定着を図りつつ、聞くこと・話すことを中心とした言語活動を充実させ、実際に英語を活用する力の育成に取り組む。

体力・運動能力の向上に向けては、男女それぞれの課題を踏まえ、体育授業や日常的な運動の機会を工夫し、継続的な運動習慣の定着を図るとともに、体力向上に向けた検証改善サイクルを確立する。